

ホームページへの掲載		
済	3月13日	掲載予定

## 岐阜県立吉城高等学校

学校長 鈴木 健  
 学校住所 飛騨市古川町上気多1987-2 電話 0577-73-4555

- 1 会議の名称 岐阜県立吉城高等学校評議員会（第1回）
- 2 会議の構成
- |     |       |              |
|-----|-------|--------------|
| 委員  | 石原 典子 | 民生委員・主任児童委員  |
|     | 尾賀 眞平 | 尾賀書店         |
|     | 田上 昌広 | 飛騨古川青年会議所理事長 |
|     | 仲島 豊  | 卒業生の保護者      |
|     | 前川 隆子 | 主婦           |
|     |       | (委員名は五十音順)   |
| 学校側 | 鈴木 健  | 校長           |
|     | 大野 貴司 | 教頭           |
|     | 日野 利明 | 事務長          |
|     | 小原 誠  | 進路指導主事       |
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援、協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成31年2月8日(金) 13:30～15:40 於：飛騨市文化交流センター  
 委員5人と学校側4人が出席 「地域連携による活力ある高校づくり推進協議会」と兼ねる
- 5 会議の概要

(1) テーマ 吉城高校のこれまでの取組みに対する評価と今後の在り方について

### 学校からの説明

#### 学校長 資料による説明

資料1 吉城高校の活性化に関わる有識者会議及び各種指定事業(H28-H32)

資料2 H30年度 地域連携による活力ある高校づくり推進事業 実施報告

資料3 H31年度 入学生カリキュラム

資料4 H30年度 自己評価、学校関係者評価

・学校経営計画（高等学校版マニフェスト）

・項目別数値実績と目標

・生徒、保護者アンケート

・各領域・分野に対する学校関係者評価について（依頼文書・記入用紙）

#### ○以下、アンケートによる意見を掲載

意見1 協議会で出される意見がしっかり反映されていると感じた。地域の各関係者の要望等に真摯に耳を傾けていると思われる。柏葉祭の日曜開催と一般開放や古川祭当日の休日化等、地域への密着、連携を深める対策も進めており評価される点と考える。

意見2 教科によって少人数・コース別授業があり、学びやすく、落ち着いた様子を見せていた。生徒のアンケート結果に出ているが、肯定的な意見が多く、学力につながればと思っている。

- 意見3 生徒の皆さんの身だしなみは整っているし、顔を合わせたときの挨拶もしっかりしている。
- 意見4 年2回いじめ防止等対策検討会議に出席しているが、いじめなど問題が起きたとき、情報交換など連携し適切な指導がなされている。
- 意見5 進路指導の具体的な指導内容はわからないが、卒業生の進路を拝見すると大変多岐に渡っている。四大、短大、専門学校、就職という大きな分類はもとより、専門学校においてもその分野は多種多様である。生徒が定めた各々の目標に対してしっかり対応させている結果だと感じている。
- 意見6 土曜講座（吉城ゼミ・補習）など、学校独自の支援が行われている。進路情報がホームページで更新されていてよくわかる。来年も「大人と語る会」を継続してほしい。
- 意見7 柏葉祭を観覧させていただき、活気があり充実した活動をされていると感じた。写真部の皆さんが作成されている「キラメキ写真館」は生徒の皆さんの日々の活動を垣間見ることができ毎回楽しみにしている。
- 意見8 柏葉祭の来場者が、小・中学生。卒業生など若い方が増えている。展示内容も工夫され、高校生らしさを感じ、特に地学部の「今年のテーマは何かな・・・。」といった期待感がある。写真部が制作しているキラメキ写真館は宝物である。
- 意見9 YCKプロジェクトは大変素晴らしい取り組みであり、加えて内容的にも年々充実が図られていると感じている。何より地域の方の認知度が当初より著しく高まっていると感じられ、内容の充実だけでなく、地域の認識・協力が深まってこそ協働活動であるため、非常に良い方向へ進んでいる。広報活動にも注力された結果だと思う。
- 意見10 YCK報告会、また一段と成長した姿を見せていただいた。生徒さんの報告後、協力してくださった方々の講評を聞くことができよかった。中学生の参加もあり、興味を持ってくれればと思う。
- 意見11 総合学習での「災害図上訓練」は大切なことである。災害時の備蓄品もすでに整備されていることを知り安心した。
- 意見12 委員就任時（3年前）は「中学生並びにその保護者の視点では、吉城高校は特色が不明確でアピールポイントに欠ける面があるのではないか」というご意見があったと記憶している。当時は私も同様の感覚を覚えていた。現在は、YCKプロジェクトに象徴される協働活動やカリキュラムの見直しにより、授業などの内容は特色が明確になりつつあると感じている。一方で進路に関しては、四大進学にするのではなく多岐に渡っており、現在でも特色がないといえるのではないか。しかしながら、進路に関しては特色がないことが、肯定的な意味で特色になりつつあると感じている。中学卒業時に明確に目標を定められる生徒さんは素晴らしいと思うが、一方で中学時点ではまだ目標が定まらない生徒さん、やりたいと思うことが複数あり、まだ一つに絞れない生徒さん、そんな中学生も多いのが現実ではないか。そのような生徒さんに対して、吉城高校の多様性に富んだ学校生活は、目標を定めることに繋がると思う。そして、各人が見出した多種多様な目標に対して、学校側は各人に適した対応に努める体制を整えられていると思う。多様性と対応力、これにより一見特色がないと感じられる面が、肯定的な意味で大きな特色となってきていると感じる。

## 6 会議のまとめ

本校の学校内外での取り組み、特に地域との協働活動を柱の一つとしたカリキュラムマネジメントについて、肯定的な意見を多くいただいた。YCKプロジェクトをはじめとする様々な活動において、地域との一体感を強く感じられるようになり、学校が目指すべき方向も明確になってきている。今後、飛騨市学園構想への参画やコミュニティースクールへの移行により、地域の学校としての位置付けが強くなることから、教科指導や進路指導においても小・中学校との連携を図りながら進めていく必要がある。